

学年別目標の達成評価

学年	ねらい	評価項目	評価	理由
2歳	・安心して園生活を送る	・園生活を楽しみ、自分で出来ることはしようとする。	A	・初めての園生活で、個人差はあるが徐々に園生活に慣れ教師と一緒にする姿が見られるようになってきた。
	・教師や友だちと一緒に遊ぶ	・いろいろな遊びを楽しむ中で友だちに関心をもつ。	B	・一人遊びから友だちに興味・関心を示し、教師と一緒にになってかかわることで、友だちと遊ぶ楽しさを感じる姿が見られた。
年少	・園生活に慣れ、身の回りのことをしようとする	・園生活で簡単な身の回りのことを行う。	A	・生活の流れがわかり、自分の身の回りのことができるようになってきている。わからないことや出来ない時は聞いて自分で取り組もうとしている。
	・教師や友だちとかかわり、好きな遊びを楽しむ	・教師や友だちと一緒に好きな遊びを見つける。	B	・友だちの名前を覚え、誘い合って遊ぶ姿が見られている。好きな遊びや集団での遊びを楽しみながら、友だちとのかかわりも広がっている。
年中	・いろいろなことに興味や関心を持ちやってみようとする	・新しいことや苦手なことにも友だちと一緒にやってみようとする姿がある。	A	・ダイナミックな活動(フィンガーペインティング・ボディペインティング等)では、絵の具の感触を全身で楽しむ姿が見られ、抵抗のある子も少しずつ慣れ、汚れて遊ぶことを楽しんだ。また、なわとびを競ったりルールのあるゲームを伴う誘い合って遊ぶ姿が見られた。
	・身近な人とかかわり遊びを楽しむ	・地域の方や異年齢児、クラスの友だちと、親しみを持って関わっている。	B	・近くに散歩に出かけ、畑に行く経験も多くできた。畑で育った野菜に親しみをもったり、野菜の葉を傘のようにして楽しみ、おじいさん・おばあさんとの交流を身近に感じる事ができた。 ・年少児と散歩に出かけた際は、危ない箇所を伝えたり、草花を摘んであげるなどの姿があった。また、年長児のドッチボールに興味を持ち、一緒に参加して遊ぶ姿が見られた。しかしコロナ禍で、交流の幅が狭くなってしまった事が残念である。
年長	・自分で考えたり、友だちと力を出し合ったりして、いろいろなことに挑戦しようとする	・グループ活動を通して、自分で考えたり、友だちと話し合いをしたりして、行事や活動に意欲的に取り組む。	A	・様々な活動や行事をする中で、自分たちで考えて制作することにより、自分の思いを素直に表現したり、相手の思いに気付いたたりし、自ら工夫する力がついた。 ・いろいろな経験を重ね、新しいことにも挑戦しようとする姿が見られるようになった。
	・さまざまなかかわりの中で、思いやりやいたわりの心を持つ	・異年齢や地域交流を通して、思いやりやいたわりの心をもつ。	A	・困っている伴に声をかけたり、手伝ったりする姿が子ども同士の中で見られるようになった。 ・地域交流を通して、収穫の喜びを味わい、人とかかわることの楽しさを感じることができた。また、お世話になった方への感謝の気持ちも芽生えた。

総合的な評価結果

評価	理由
A	年齢によっても個々によっても細かい課題は見られるようだが、総合的にどの学年もねらいが達成されていることが分かった。常に子どもの心に寄り添い、一人ひとりが安心して園生活を送り、楽しい、おもしろい、やってみたく感じ、充実感のある毎日を過ごせるよう教育を進めていきたい。日々の保育の振り返りを行い、職員が協力して豊かな教育環境を創っていきたい。

重点目標

「友だちづくりは あいさつから」

成果	課題
・マスク生活で、年度当初は教師から挨拶を促し、子どもたちが返すことが多かったが、次第にあいさつの声が大きくなり、中には進んであいさつをする子も増えている。	・あいさつは人と人との心を交わす大切な言葉である。今後も繰り返し指導する。 ・大人が明るくあいさつすることが手本となるので、家庭でもあいさつの習慣を意識してもらうことが大切である。

人権同和保育

「あたたかい心で助け合い、共に育ち合う仲間づくり」
 ～楽しい 面白い やりたいこと みんなでやってみよう～

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・全体が一つの目標に沿って話し合い、日々の保育を見つめ直しながら保育をすすめることができた。(全体) ・子どもの言葉、行動からごっこ遊びの環境を見直し変化や工夫を行い「まだ遊びたい」「明日もしたい」という言葉が聞かれ、おみせやさんごっこが十分楽しめた。(2歳) ・4月から続けていたいろいろな表現遊びがきっかけとなり、「いれて」「いいよ」「一緒にしよう」などの言葉を交わし、仲間と遊ぶ楽しさを味わい友だち関係が育った。(年少) ・異年齢交流がたくさんできた。同学年ではできないことも経験できるので、わくわく感を持って遊び、満足感、達成感を味わった。また、助けたり助けてもらったりの経験が心を育てている。(年中・年長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で保育や取り組みの振り返りを行い、子どもの興味関心に即した環境構成、援助を今後行う。 ・2歳のように経験が少ない子どもたちのためには、イメージが膨らむような環境を工夫することが必要である。 ・年齢的になりきり遊び、模倣遊びを喜ぶが、一つのことにみんなで向かうということは難しい部分もある。 ・本園は異年齢交流と称し、2学年での交流を様々な形で行っている。その取り組みでは子どもの様子について細かな連携・配慮が必要となる。 ・異年齢のかかわりは、何気ない普段の生活の中でも自然と生まれ心が育っている。今後も子どもたちの日常生活を通して、育ち合う姿を認め育てていく。

今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法
環境	園庭や園舎内の環境整備及び、幼児の発達に添った環境構成に取り組む。
行事の見直し	年間を通して行事の見直し、改善点を子どもたちの成長に繋げていく。
幼小接続	就学先の小学校と連携を深め、共に学び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有、教育の接続を図る。
特別支援教育	個別の支援計画、個別の指導計画を有効活用した保護者、専門機関との連携及び研修参加を行う。